

神奈川県身体障害者連合会会報

身障かながわ

発行 (公財)神奈川県身体障害者連合会
 会長 戸井田 愛子
 〒221-0844
 横浜市神奈川区沢渡4-2
 電話 045-311-8736 FAX 045-316-6860

編集 「身障かながわ」編集委員会
 編集委員長 新井 修身

印刷 内村印刷株式会社

- 第60回神奈川県身体障害者福祉大会……………①
- 障害者権利条約合理的配慮の考え方……………②
- 私の故郷（三浦市）……………③
- 協会の歩み60年（厚木市）……………③
- 雨で中止富士登山……………④
- 第7回神奈川県障害者文化・芸術祭案内……………④

- さんぼみち（相模原市）……………⑤
- みんなの広場（視力部）……………⑤
- 盲ろう者の視点……………⑥
- 県身連事業予定（10月～12月）……………⑥
- 編集室から……………⑥



平成二十七年十月四日(日)、第六十回神奈川県身体障害者福祉大会が、ハーモニーホール座間(座間市立市民文化会館)を会場に七〇〇余名の参加者が一同に会し盛大に開催されました。

式典では、主催者を代表して県身連戸井田会長、神奈川県副知事のあいさつの後、地元座間市の遠藤市長から歓迎のことばをいただき、県知事及び県身連会長より、受賞者に対し表彰が行われました。

今回の大会では、式典終了後に神奈川県工科大学の小川喜道教

- 自立更生者
鈴木 治郎 (海老名市)
- 更生援護功労者
島川 智子 (横須賀市)

大会宣言

(前文省略)

一、私たちは、条約理念に基づく障害関連のあらゆる分野が着実に施行され、障害者の権利保障が図られるよう、働きかけていきます。

一、私たちは、障害者や障害関係団体の意見が十分に反映された差別禁止条例の制定に向けた取り組みが進められるよう、働きかけていきます。

一、私たちは、障害者の防災対策や避難所における対応など、災害時の障害者への支援体制の充実が図られるよう、働きかけていきます。

一、私たちは、いつでもどこでも安心して暮らせる地域社会を築くために、関係者との連携を強めながら、自らの力を十分に発揮するよう努力します。

授を迎え、「障害者権利条約と今後の課題」をテーマとした講演を行い、盛会のうち終了いたしました。

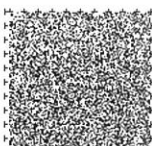
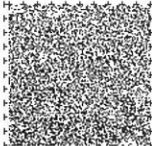
次回開催地は、相模原市です。

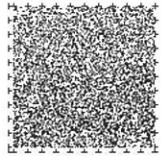
**第六十二回
神奈川県身体障害者福祉大会**

期日 平成二十八年十月二日(日)

会場 相模原市文化会館
大ホール

- 表彰
 鷺見 寿子 (藤沢市)
 南場 厚志 (秦野市)
 崎原 厚志 (厚木市)
 堀田 緑子 (厚木市)
 織戸 郁子 (大和市)
 古賀 テル子 (海老名市)
 仁科 のぶ子 (海老名市)
 露木 悦子 (真鶴町)
- 感謝状
 磯 三ユキ (逗子市)
 加藤 晴美 (平塚市)
- 県身連会長表彰 (敬称略)
 関尾 温 (横須賀市)
 宮内 淑江 (鎌倉市)
 小山 恭子 (秦野市)
 畑中 靖敏 (厚木市)





障害者権利条約 合理的配慮の考え方

障害者権利条約とは

障害者の人権や基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進するため、障害者の権利の実現のための措置等を規定している国際条約。

主な内容

- ◇障害に基づくあらゆる差別（合理的配慮の否定を含む）の禁止
- ◇障害者が社会に参加し、包容されることを促進
- ◇条約の実施を監視する枠組みの設置等

合理的配慮の基本的な考え方(一部紹介)

- 行政機関等及び事業者が、その事務・事業を行うに当たり、個々の場面において、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁を除去するための必要かつ合理的な取組であり、その実施に伴う負担が過重でないもの。
- 障害の特性や具体的場面・状況に応じて異なり、多様かつ個別性が高く、代替措置の選択も含め、双方の建設的対話による相互理解を通じて、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応がなされるもの。さらに、技術の進展、社会情勢の変化等に応じて内容が変わりうるもの。

各障害の困難や特徴における合理的配慮の事例 (情報アクセス・コミュニケーション編)

【肢体不自由（車椅子使用者）】

困難や特徴	合理的配慮の事例
・ 座位のため、目の位置が低くなる。	・ 車椅子使用者の目線に合わせて、ポスターを低めに掲示する。 ・ 車椅子使用者の目線に合わせて、商品を配置する。

【視覚障害】

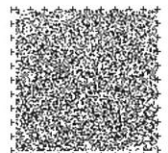
困難や特徴	合理的配慮の事例
・ 文字や絵など視覚から得られる情報の入手が困難。	・ 広報誌を点字で印刷する。 ・ 点字の試験用紙を用意する。 ・ パソコンに音声読み上げソフトを導入する。 ・ 研修等で、内容の理解度や伝達状況を確認しながら進行する。

【聴覚障害】

困難や特徴	合理的配慮の事例
・ 音声情報の入手が困難。 ・ 会話のやりとりが困難。 ・ 障害のあることが他の人にわからない。	・ 問合せや申込をファックスやメールなどのできるようにする。 ・ 会議等で手話通訳や要約筆記を配置する。 ・ テレビに字幕を入れる。 ・ 筆談用具や筆談ボードを配置する。

【音声・言語障害】

困難や特徴	合理的配慮の事例
・ 会話のやりとりが困難。	・ 聞き返したり、伝えたい内容を確認しながら会話する。



私の故郷

三浦市 飯島 定夫

東京湾の入り口に大きい半島があり、その先端部分が私の故郷、三浦市です。面積は三十二平方キロで、現在の人口は四万六千人で年々減少し心配の種となっています。

市町村のページ

市の南側に「城ヶ島」があり天然の防波堤となり、波静かな三崎港があります。三崎港はマグロの水揚げが東洋一と称されマグロを満載した漁船が水揚げ順番を待つ行列ができる時代が続いた。当時は、町中が活気に溢れ、商店街は勿論、狭い裏通りにもバーや飲み屋が軒を連ねて、終夜営業の賑わいが続いたとか。当時の様子を歌った唄がある。「三崎の港に碇はいらぬシャミヤタイで船繋ぐ」と唄われた。

暫く続いた好景気のなか、米国の水爆実験が南方洋上の「ビキニ環礁」で実施され付近の洋上で操業中の三崎

港所属の漁船が被爆し捕獲した大量のマグロが破棄された悲しい時期があった。マグロの水揚げは一時的に減少したが、程なく回復したものの以前のような好景気は望めず夢物語となった。

行政は、「三崎のマグロ」のイメージを保ちながら観光事業等に力を入れ三浦を盛り上げようと、諸計画をたて実施しているようにです。その一つに、城ヶ島に海の釣堀り場を造り、「手ぶらで来て、海釣りができます。釣った魚はお持ち帰り下さい。」と発信していますが、開設以来、日も浅くお客の姿は少ないが、そのうち大勢の人々が来られることを期待しています。その二に、「三浦の朝市」で知名度は高く、毎日曜日早朝に開かれ横須賀方面からも車で来る人達が押し寄せ、明るい事業で長く継続されることを祈りたい。三浦市は、農業も盛んで、夏はスイカやメロン、冬は三浦大根、キヤベツなどを栽培し京浜地区をはじめ全国に出荷されている。三浦は、海あり丘あり、風光明媚、気候は温暖、東京、横浜などにも近く、とても住みよい市であると信じています。

協会の歩み六十年

厚木市 開沼クミ子

昭和三十年二月厚木市誕生により、厚木市愛甲身体障害者協会が、厚木市身体障害者福祉協会と改名し、初代会長の安藤福太郎氏は、昭和三十年二月より昭和三十二年三月まで協会の拡大に貢献し職務を遂行される。二代目会長の高橋太郎氏は、昭和三十二年四月より平成六年三月まで三十六年間会長として職務に就き、昭和五十九年四月より平成六年三月まで神奈川身体障害者連合会会長の要職に就き、行政機関や障害者の育成に貢献される。三代目会長の林祐次郎氏は、平成六年四月より平成十一年三月まで五年間会長として協会の福祉関係団体との連携を図り、協会の発展に貢献される。四代目会長の金子孝吉氏は、平成十一年四月より平成十二年三月まで会長に就任し、林会長の後継者として協会の正常化に活躍されました。五代目会長の小島榮治氏は、平成十二年四月より平成十四年三月まで会長に就任したが病の為会長職を

辞職し協会の総務部長として協

力し再び平成十六年四月より、平成二十年まで会長として活躍された。六代目会長の石井剛氏は、平成十四年より平成十六年三月まで会長に就任し、高齡の為会長職を辞す。協会発展に活躍される。

今度神奈川身体連六十周年にあたり、厚木市も協会も同じく六十年を迎えます。

表彰を授賞された方々です。

知事表彰

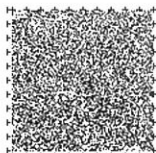
畑中 靖敏様

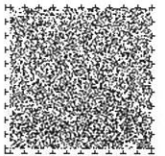
県身連会長表彰

堀田 緑様
崎原キミ子様

授賞された皆様、誠におめでとうございます。

私も厚木市身障協会の会長として七年が経ちました。会員の皆様のお力添えとご協力があつたからです。これからもご協力を宜しくお願い申し上げます。





雨で中止 富士登山

毎年開催しています身体障害者富士登山を七月十六日(木)に行う予定でしたが、雨により富士登山は行わず、雨天時のコースに変更し開催しました。総勢百三十九名、県内各地からバス四台で分乗し、集合場所である富士吉田ビジターセンターに向かいました。当日は、台風が接近することとなっていました。進路を変え逸れた為、朝の内は雨が降らず曇り空でした。東名高速道路に入

事業案内・報告

つてまもなく、急に大粒の雨がバスのフロントガラス一面に降り注いできました。少し時間が経つとその雨は止み、また少し経つと雨が降り、その繰り返しで到着しました。

二号車(藤沢・茅ヶ崎・平塚・大磯・二宮・小田原)、三号車(大和・綾瀬・海老名・秦野・中井)、五号車(相模原・愛川・厚木)は集合時間通り十時までにビジターセンターに到着

しましたが、一号車(鎌倉・逗子・横須賀・三浦)が横浜横須賀道路で事故渋滞に遭い、到着が十時四十五分頃になりました。全車がビジターセンターに到着した時、若干雨が降っていました。開会式は行わず今後の行程について事務局とバス運転手と協議した結果、参加者の安全を考え、雨天時ルートに変更しました。十一時頃全車が最初の目的地である、「富士湧水」の里水族館に向けて出発し、十一時十五分に全車が水族館に到着しました。ほとんどの参加者が水族館へ足を運び館内を觀賞していました。「富士湧水の里水族館」は障害者は無料(手帳持参)で館内もバリアフリーとなっておりますので、行く機会がございましたらオススメです。その後は道の駅富士吉田に向かい、昼食を摂りました。道の駅富士吉田付近には様々な施設があり雨が強くなければ見て回りたいほど興味深いものばかりでした。参加者の皆さんは大きなお土産袋を持って店から出てくる方がたくさんおり、道の駅を満喫しておりました。十三時三十分全車が道の駅をあとにし、無事に終了しました。

第七回 神奈川県障害者文化・芸術祭

今年度の文化・芸術祭は、十月十二日(水)十三日(木)にかけて、逗子文化プラザホールにて開催いたします。

この文化・芸術祭は、障害者が地域で活動している音楽・ダンスなどの発表と書道・写真・絵画・手芸などの展示をしています。日ごろから活動している障害者の文化活動の成果を発表する場として実施していきますので、是非皆さんでお越しください。

《詳細》

【会場】

逗子文化プラザホール

ギャラリー

さざなみホール

なぎさホール

※入場は無料です。

【日時】

12/12(土) ギャラリー

10時から十六時

さざなみホール

11時から十六時

12/13(日) ギャラリー

10時から十五時

さざなみホール

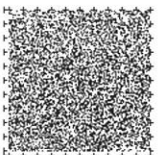
10時から十五時

なぎさホール

12時から十五時

文化芸術祭では、出演・出展者を募集しています。
出演・出展に関する問合せは、神奈川県障害者社会参加推進センターまでお願いします。
《推進センター事務局》
TEL 045-311-8744
FAX 045-311-6860
【申込期限】
平成二十七年十月二十八日(水)まで

※ギャラリー・さざなみホールでは作品展示。なぎさホールではダンスなどの発表を予定しています。



みんなの広場

相模原市 池川 一枝

「希望の光」
やっとの思いで息子と二人暮らしを始めて五ヶ月目の出来事です。息子の養護学校の卒業式も無事に終わりホッとしていました。まさか結核に感染しているとはこの時はわかりませんでした。

持病の糖尿病受診のため病院に行きました。眼科の先生が「すぐに大きな病院で手術した方がよい」と北里大学病院への紹介状を書いてくれました。と同時に、結核感染の疑い有りと言われ、検査の結果、まさかの結核に感染していました。強制的に秦野にある神奈川病院に入院することになりました。完全隔離の結核病棟、昔なら生きて病院から出ることができないほどの重病です。やっとの思いで最愛の息子と親子水入らずの生活が始まった平成二十四年の春でした。私は明るい窓際のベッドで、戦争を乗り越えたであ

ろう大きな木と向かい合い、その自然のパワーをもらって自分と闘っていました。「絶対に生きて帰ろう」と四ヶ月に渡る長期入院中、今度は薬の副作用か、まさかの視力低下で私はこのまま失明してしまうかもしれないと思うくらい何も見えなくなりました。絶望という崖の淵に立たされ、一歩間違えば落ちてしまふところでした。

退院後、すぐに北里大学病院へ。手術は病巣が古いので無理と言われ、絶望と失望のどん底へ落ちました。最終的に治療方針がレーザー治療で病気の進行を止める方法しかありませんでした。二年間、北里大学病院に通って痛いレーザー治療に耐えました。

今は奇跡と言われるまでに回復しています。

NPO法人神奈川県視覚障害者福祉協会の活動紹介

視力部 新井 修身

当協会では、年間を通してさまざまな事業を展開しております

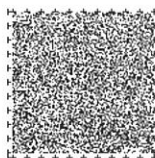
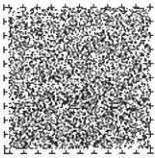
すが、今回はその中の一つ「情報提供事業」について紹介します。

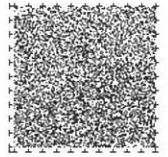
この事業は「神奈川県視覚障害者情報センター」「神奈川県ライトハウス」において、広報委員会が中心となり以下の情報を会員に向け発信しています。

- 一、「かな視協だより」の制作発行、この広報誌は毎月会員個人に点字、活字、CD(音声版)、メール等個人の希望する媒体で送付すると共に七沢厚生ライトホームにも配信している。この「かな視協だより」の主な内容としては、「行事予定」「お知らせ」「会務報告」「各部署部などからの事業報告やイベント紹介など」
- 二、情報メールの送信。これは会員並びに賛助会員に対し、次のメールマガジンの配信を行い情報提供に務める。(一)かもめメール、視覚障害者に関する情報を随時送信している。(二)やまゆりメール、神奈川県ライトハウスからの情報を随時送信にしている (三)JBニュー

ース、当協会の上部団体日本盲人会連合からの情報を月曜日からの情報を月曜日から金曜日まで送信。(四)情報メールの送信、障害者関係、視覚障害者関係のニュース(福祉関係、職業関係)を月曜日から金曜日に配信している。

- 三、「愛盲時報」の送付、年四回日盲連から送られてくる「愛盲時報」を市町村・社会福祉協議会や眼科のある病院等関係各所二百カ所以上に送付、又、これに同封する形でかな視協への入会の勧め「ライトハウスパンフレット」を送付し、相談を受けたり会員の増加を目指すようにしている。
- 四、ホームページの定期的更新を実施し、常に新鮮な情報提供を行っている。
- 五、防災演習の実施、九月一日、一月十七日、三月十一日の年三回メール又は電話を使い会員の安否確認を実施している。





盲ろう者の視点

神奈川盲ろう者ゆりの会

会長 川島 朋亮

盲ろう者とは、目と耳両方に障害を併せ持つ人を言い、わかりやすく言えばヘレン・ケラーのような存在を指します。盲ろう者は見えづらい・聞こえづらい故に主に以下のような困難があります。

一、周囲の状況、メディアな

う者への支援を行っています。

二、友人・家族など周囲とのコミュニケーション。

三、移動(外出)

これらの困難をカバーできるのが「盲ろう者向け通訳・介助員」の存在です。通訳・介助員は(一)、盲ろう者一人ひとりに適したコミュニケーション手段(詳細は下記ウェブをご覧ください)を用いる。(二)、周囲の状況を伝える、相手の話や講演などの内容を通訳する。(三)、外出の際に移動を介助したりして盲ろう者への支援を行っています。

それによって盲ろう者も、一般市民同様に自らコミュニケーションしたり行動したりすることが出来ます。教育・就労を含めて社会・生活全般にわたっていつでもどこでもニーズに応じた通訳・介助の支援を受けられるようにすることが、盲ろう者及び家族の求める合理的配慮の一つであり、実現されることを強く願っています。神奈川盲ろう者ゆりの会。

神奈川盲ろう者ゆりの会ウェブ
<http://kanagawa-db-yurinokai.com/>

県身連事業予定

- <10月>
 - 4日(日) 第60回県福祉大会 (ハーモニーホール座間)
 - 8日(木) 肢体部会役員会 (県社会福祉会館)
 - 10日(土) 全国スポーツ大会神奈川県選手団強化練習会 (麻溝公園競技場ほか)
 - 10日(土) 全国スポーツ大会相模原市選手団強化練習会 (麻溝公園競技場ほか)
 - 13日(火) 社会参加推進協議会 (県社会福祉会館)
 - 20日(火) 身障かながわ編集委員会 (県社会福祉会館)
 - 24日(土) 肢体部会青年部野外活動 (横浜ワールドポーターズ屋上)
 - 24日(土) 第15回全国障害者スポーツ大会 ~26日(月) (和歌山県)
- <11月>
 - 11日(水) 肢体部会研修会 ~12日(木) (伊豆潮風館)
 - 28日(土) パラ駅伝inTOKYO2015 ~29日(日) (駒沢公園陸上競技場)
 - 29日(日) 肢体部会ダーツ大会 (藤沢太陽の家)
- <12月>
 - 12日(土) 障害者文化・芸術祭 ~13日(日) (逗子文化プラザホール)
 - 13日(日) 肢体部会青年部クリスマスの集い (藤沢市民会館第2展示ホール)

※問い合わせ 電話：045-311-8736
045-311-8744 [推進センター]
FAX：045-316-6860
<http://kanagawa-kenshinren.or.jp>



黒岩県知事との面談 (2012年10月17日: 神奈川県庁にて)

1月交流会と成人式のお祝い (2013年1月20日: 横浜ラポールにて)



編集室から

突然前任者が辞表を出したとの事で急遽編集委員の大役を仰せつかり一年が過ぎました。編集会議では沢山の意見、希望等を諸先輩から聞き私も仲間に入れて戴き楽しくやっております。

私が障害者になってから早いもので四十五年が経ちました。まだ、リハビリと言う言葉さえ無かった時代で新宿の戸山町にある福祉センターでお弁当を持つ参での歩行訓練、そして鉄道弘済会で義足作り、ここでも歩行訓練、自由に歩いて行きたい所に行けると胸がときめき嬉しかったのを覚えています。障害者となつてから寂しく、虚しく、辛く俯いて過ごした時期もありましたが、これ乗り越えて生きて来られたのは家族、主人、友達です。これからは少しでも皆様のお役に立てればと思っております。

編集委員 岸野 暎子 (相模原市)

